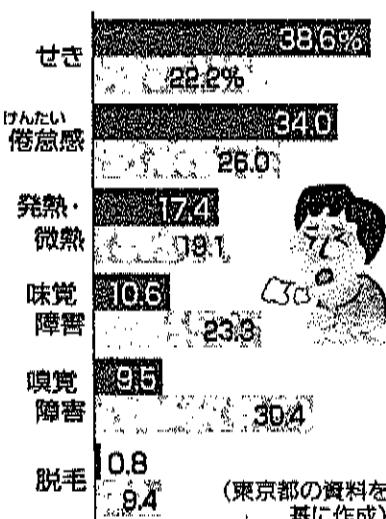


オミクロン株感染の後遺症 せき・倦怠感が増加

コロナ後遺症として相談者が訴える症状（複数回答）

■ オミクロン株（2039人分析）
△ デルタ株以前（3857人分析）



新型コロナウイルスのオミクロン株感染による後遺症の実態が、少しずつ分かってきました。デルタ株以前より、せきや倦怠（けんたい）感を訴える割合が多いものの、味覚・嗅覚障害は少ないなどとされます。専門医は「後遺症は長期化傾向がある。感染時は軽症でも油断は禁物だ」と呼び掛けています。

東京都が5月下旬、都立・公社病院が受け付けた電話相談の分析結果を公表しました。オミクロン株流行数回答）では、せきが最多の38.6%、倦怠感が34.0%でした。デルタ株以前の後遺症として相談が寄せられています」そして、感染期間の1~4月に陽性が判明した2039人の症状（複数回答）では、せきが最多の38.6%、倦怠感が34.0%でした。デルタ株以前の後遺症として相談が寄せられています。

新型コロナ後遺症は、長期化傾向も問題になっています。慶應大学などは2020年1月～21年2月の1066人が対象で調査した結果、発熱・微熱などは同水準で、相談者の年齢構成や持病の有無も大差はありませんでした。都是「相談者の97%が感染時に軽症以下だが、後遺症の相談が寄せられている」として、感染予防策の徹底を呼び掛けています。

後遺症疑いの患者を400人以上診察したヒラタクリニック（東京都渋谷区）の平畠光一院長は「後遺症の長期化傾向はオミクロン株でも同じで、症状の重さもデルタ株と変わらない。寝たきりになったり、せんそくのような症状が出たりする」ともある」と指摘。「感染時は軽症だから後遺症も大したことはない」と油断してはいけない。特に感染後の2カ月間は無理をしないで」と訴えています。

新型コロナウイルスのオ

（昨年3～10月に電話相

談）の3857人ではそれで、大きくなっている形です。前より、せきや倦怠（けんたい）感を訴える割合が多いものの、味覚・嗅覚障害は少ないなどとされます。専門医は「後遺症は長期化傾向がある。感染時は軽症でも油断は禁物だ」と呼び掛け

ています。都は「相談者の97%が感染時に軽症以下だが、後遺症の相談が寄せられている」として、感染予防策の徹底を呼び掛けている。

後遺症疑いの患者を400人以上診察したヒラタクリニック（東京都渋谷区）の平畠光一院長は「後遺症の長期化傾向はオミクロン株でも同じで、症状の重さもデルタ株と変わらない。寝たきりになったり、せんそくのような症状が出たりする」ともある」と指摘。「感染時は軽症だから後遺症も大したことはない」と油断してはいけない。特に感染後の2カ月間は無理をしないで」と訴えています。

日、入院患者の33.0%が診断から1年後も何らかの症状を訴えていたとの調査結果を公表しました。症状（複数回答）は最多が倦怠（けんたい）感（12.8%）で、呼吸困難（8.6%）、思考力低下・筋力低下（各7.5%）などが続きました。調査は2020年1月～21年2月の1066人が対象でオミクロン株感染者は含まれませんでした。都是「相談者の97%が感染時に軽症以下だが、後遺症の相談が寄せられている」として、感染予防策の徹底を呼び掛けている。